

7 月です。授業での学校図書館活用や全校で取り組む読書活動など、今年度も、各学校での学校図書館活用や読書指導が前進しています。

新学習指導要領でも主体的・対話的で深い学びの実現に向け、学校図書館活用や読書活動の充実が重視されています。図書・新聞・雑誌・情報ファイル・インターネット情報・インタビュー・体験・見学等、様々なメディアを効果的に活用できる児童・生徒を育成しましょう。



長文を読む力を育てる

学校教育法において、義務教育の目標の中に「読書に親しませ」とあるのは周知のことですが、さらに「読書に親しませ、生活に必要な国語を正しく理解し、使用する基礎的な能力を養うこと。」とあり、読書に親しませることにより国語力を養うことが目標となっています。

また、学校での読書は、何かを調べるために図書や新聞、雑誌を読むことも読書ととらえますが、1冊の本を最初から最後まで読み通す長文を読む力を育てること、読書の量だけでなく質を高め健全な教養を育成することも大切です。国語で培った力を他の教科等で生かし、国語を中核とするすべての教科等での読書指導により、余暇時間での個人の読書も充実していきます。

例えば、小学校低学年は、担任や学校図書館支援員等が読み聞かせを行い、家庭での音読練習や読書を奨励し、本に親しみ一人で読めることを目標とします。

中学年・高学年は、1冊の読み物を終わりまで読み通すことを目標とします。長文を読み通す力は、「慣れ」が必要なこと、自分で自分を訓練することなしには長文を読む力は身につかないことを知らせ、朝読書などの一斉読書や「図書の時間」は、授業中であることを自覚させます。

読み聞かせやブックトークの後に、なんとなく書架のあたりで過ごしたり、漫画や眺めて楽しむ本を見ていたりしないで、長文を読む力を付けるという目標をもって読書の学習に取り組ませることが大切です。

中学校では、読書材の選択の指導が中心になるでしょう。「ものの見方や考え方を広げようとする」「生活に役立てようとする」「自己を向上させようとする」という中学校学習指導要領国語の目標を念頭に置いて、図書を紹介する場を作ります。娯楽としての読書ももちろん楽しみながら、読書により自己の向上が図れる中学生を育成しましょう。

長文の読解力を付けるためには、高学年・中学生になっても学校図書館での読書の学習を計画することと読書の習慣化が大事です。

国語で、学級活動で、各教科等で、様々な学校生活の場面で、学校図書館を活用してください。

「中学 1 年生になったみなさんへ」のご紹介

小学校と中学校の学校図書館支援員が連携して行っている業務に、本の紹介があります。3 学期には、中学校の学校図書館支援員が「中学校で待っているよ」という気持ちを込めて、中学校にある本の紹介を小学校 6 年生対象に発信しました。1 学期には、小学校の学校図書館支援員が、「中学校生活がんばれ」という気持ちを込めて、中学校 1 年生対象に本の紹介を発信します。今週中に支援員が持参する予定です。

「中学 1 年生になったみなさんへ」というカラー A3、3 枚からなるものです。夏休み前の指導に利用するなど、各中学校で活用してください。

